



公的職業訓練効果検証の報告について

公的職業訓練効果検証ワーキンググループ 改善促進策について

令和5年10月24日

神奈川県労働局職業安定部訓練課



地域職業能力開発促進協議会に設置する 公的職業訓練効果検証ワーキンググループの進め方（令和5年度実施分）

資料 5-1

目的
適切かつ効果的な職業訓練を実施していくため、個別の訓練コースについて訓練修了者等へのヒアリング等を通じ、訓練効果を把握・検証し、訓練カリキュラム等の改善を図る。

構成員
地域職業能力開発促進協議会（地域協議会）の構成員のうち、都道府県労働局、都道府県、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構（※他の構成員の追加可）

検証手法
検証対象の訓練分野を選定し、当該分野の訓練コースの対象へのヒアリングを行い、その結果から、訓練効果等に関して検証し、改善促進策（案）を検討。

- 具体的な進め方**
- ① 地域協議会で検証対象の訓練分野を選定。
 - ② ワーキンググループ（WG）は、選定された分野の中から訓練コースを3コース以上選定し、各コースの対象の3者にヒアリング。（ヒアリング対象：訓練修了者、訓練修了者の採用企業、訓練実施機関）
 - ③ WGは、ヒアリング結果を踏まえ、調査した訓練コースを含む分野全体について「訓練効果が期待できる内容」、「訓練効果を上げるために改善すべき内容」を整理。⇒改善促進策（案）を検討。
 - ④ WGは、地域協議会に改善促進策（案）を報告し、次年度の地域職業訓練計画の策定に反映。

スケジュール

	令和4年度	令和5年度上半期	令和5年度下半期
中央職業能力開発促進協議会	2月 協議会開催	9月 協議会開催	2月 協議会開催 地域協議会から 検討結果を報告
地域職業能力開発促進協議会	2～3月 協議会開催 検証対象訓練 分野を選定	② ヒアリング 結果整理	10月頃 協議会開催 WGから報告→次年度の計画の策定に反映
ワーキンググループ（WG）	① ヒアリング	③ 改善促進策 （案）検討	④

選定分野のうち3コース以上
×3者（修了者、採用企業、実施機関）

効果検証を行う訓練分野

求職者支援訓練、委託訓練ともに応募倍率が高く、就職率が低い傾向にある。

類似分野のデザイン分野も同じ傾向で、現在、IT分野とデザイン分野を合わせたデジタル分野を推奨し、訓練コースの割合を増やしている中、就職率を上げるため、検討が必要であることから、令和5年度については、IT分野とした。

ヒアリングの状況

○実施時期 令和5年7月～9月

○実施者 神奈川労働局、神奈川県、横浜市
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部

○ヒアリング先

職業訓練実施機関、職業訓練受講者採用企業、訓練受講者

ヒアリング実施結果概要① (職業訓練実施機関)

【質問】

【実施機関からのご意見】

【検討課題等】

訓練実施にあたって工夫している点（IT分野のカリキュラムを決める際、工夫した点、参考にした事項、重視した科目等）

- 就職の確立を高めるため、学習目的ではなく、就職に有効な技術や就職後に使える技術、求人に多い言語（JavaやC言語など）を中心にカリキュラムを考えている。
- テキストの見直しについては、常に対応し、1～2年に1回は見直しをしている。
- 企業側やIT業界のニーズを優先するため、開発現場で実際に活用している言語について企業へのヒアリングや求人票なども確認し、実際の場面で活躍できる言語を意識している。
- 授業を録画し、自宅でも繰り返し学習できる環境を整備している。

就職の可能性を高めるため、企業ニーズ等の把握に努め、企業ニーズの変化に対応できるようカリキュラムを見直している。

訓練機関が行っているキャリアコンサルティングの状況

- 業界認識として現場経験者の話を聞くなど、多様な業務があることを知ってもらっている。開発だけでなく、クライアントへの事務作業など実態に即した情報の提供をしている。
- 未経験からの就職の場合、最初からリモート業務（在宅勤務）になりやすいことを理解してもらう。
- 今は様々な情報が電子化されており、どこの職場でもIT技術を使わざるを得ない状況となっている。

職員の訓練施設見学等による更なるマッチング精度の向上を図る。
デジタル分野の訓練の他分野への応用について受講者・求人企業へ訴求することが就職を促進。
他の訓練分野においても基礎的ITリテラシーが求められている。

ヒアリング実施結果概要② (訓練修了者を採用した企業)

【質問】

【採用企業からのご意見】

【検討課題等】

訓練修了者の採用について、未受講者の採用の場合と比較して期待していること

- 基礎的知識、用語がわかることは、アドバンテージにはなる。
- 訓練受講の経験は、自己PRにつながる。
- 経験よりビジネススキル、異業種でもコミュニケーション能力の経験を重視している。
- 訓練を受講した、継続的な学びの姿勢に期待している。

訓練により得られたスキル、技能のうち、採用後に役に立っているもの

- 基礎的な知識があるため、自社での研修期間を短縮することができる。
- 自ら学ぼうとする、努力する姿勢がある方は、その後のスキルアップに期待ができるが、教えてもらうだけの方は、初期的な仕事のみになってしまう。

訓練において、より一層習得しておくことが望ましいスキル、技能等

- 基礎言語も必要だが、ITパスポート、基本情報技術者を取得しておくとうい。
- より実践的なカリキュラムやWebの場合は多種多様なポートフォリオの作成など。報告や、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力も重要。

従業員のスキルアップ(学びなおし)の取組

- 本人主体の研修、eラーニングが多い。
- OJTが主体。

就職の可能性を高めるため、訓練で学んだことや受講したこと等で得られたコミュニケーション能力のPRも就職のために有効。

また、デジタル分野特有の基礎的資格の取得や、就職の際に必要な多種多様なポートフォリオ(作品)の作り込みも有効。

継続的に自ら学ぶ姿勢も重要であるため、求職者の意識改革も必要。

ヒアリング実施結果概要③ (訓練修了者)

【質問】

【採用企業からのご意見】

【検討課題等】

訓練内容のうち、就職後に役にたったもの

- ほとんど役に立っている。一部実務で使用していなくても、「知っている」ということが強みになっている。
- 基礎的言語を学んだことにより、他の言語を覚えやすい。

訓練内容のうち、就職後にあまり活用されなかったもの

- 仕事の内容により使用する言語等が違うため、活用されていないものもあるが、今後活用する可能性はある。

就職後に感じた、訓練で学んでおくべきであったスキル、技能等は

- グループワーク等を通して、業務の言語化（伝え方）の習得。訓練内容をまとめるなど、実務における日報の作成にも慣れることができる。
- 初心者にはVBAが良く、スキルアップにはリアクト、タイプスクリプトなどを学ぶとよいと思う。
- ポートフォリオをもっと多く作成しておけばよかった。

IT業界において、仕事が細分化されている傾向があるため、基礎的な訓練から、応用について、自ら学ぶ姿勢も重要である。

また、より実践的な内容も加味することが有効。

今後受けてみたい訓練の内容、時期など

- ホームページからサイト作成までができるような訓練。
- アプリ開発、動画制作など。

就職先の目標に合わせた訓練内容が、就職にも有効。

ヒアリング結果を踏まえた今後の対応について

改善促進策

- I T分野（デジタル分野）の訓練の設定の割合を令和5年度と同程度で継続

I T分野の就職率が改善してきているため、設定の割合は同程度で継続。

- 訓練実施機関によるハローワーク求職者に対する事前説明会や見学会の開催を推進

訓練入校前に、コースの仕上がり像、専門分野ごとの業界の認知、イメージの意識づけをすることは、修了後の就職に影響があるため、開催回数や内容の改善を依頼。

- ビジネススキル、コミュニケーション力向上を図る訓練カリキュラムの強化について、訓練実施機関へ依頼する

職場で必要と思われるビジネススキル、グループワークなどを通じたコミュニケーション力の向上を意識し、就職後の実務を踏まえた訓練カリキュラムの強化を依頼。

- I T業界（デジタル分野）の認識の向上を図る

訓練実施機関に対し、職業人講話などを通して受講者に就職後も学びを継続するための意識づけを依頼。

ハローワーク職員の適切なあっせん、マッチング制度の向上のため、訓練施設見学等を実施しているが、更に実施回数を増やす。

- 訓練修了者が応募できる求人の確保を図る

ハローワークの求人部門と訓練部門が連携し、求人企業に対し、訓練修了者を念頭においた求人開拓および事業所訪問をすることで、訓練修了者の就職機会の拡大に資する訓練修了者歓迎求人等の確保を推進。